

**稲本正**(いなもと・ただし)

工芸家。1945年富山県生まれ。1974年工芸村オークヴィレッジ(岐阜県清見村)を創設。お椀から建物まで幅広い工芸を展開する一方、植林活動を行い、また地球環境における森林生態系の重要性を発言し続ける。著書『森の旅 森の人』で日本全国の森林を歩き、『森の形 森の仕事』(毎日出版文化賞)で日本の木文化の根源を探求。『森の惑星』で世界の森を訪ね、14年に及ぶ森の旅をまとめあげる。日本環境教育フォーラム常務理事。CCC自然・文化創造会議議員。著書に「ソローと漱石の森」「循環シンフォニー」他多数。

稲本正

## 里山で産まれて、里山で育った。

裏山のふもとに「基地」を構え、榎の木で木刀をつかって、大将の指揮のもとチャンバラに明け暮れる小学生時代だった。

高校を出て、東京に10年住んだが、今また里山に居を構え里山の恵を使って家具や木のオモチャを造っている。

荒地に「こども一人 どんぐり一粒」の合言葉で木を植え続けた。来年で30年になるので植えた木も予想以上に大きくなった。アマゾンやマダガスカルに木を植えるのも手伝い、世界に里山を広めようと思っている。

私も、友人のC. W. ニコルさんや南こうせつさんと一緒に、『ペコちゃんの森』の里山づくり運動を応援します。

稲本 正

